

2015年12月期 業績概況 (期間:2014年12月21日~2015年12月20日)

《連結決算概要》

(単位:百万円)

	2015年12月期 実績	2015年12月期 計画 (2015年8月17日公表)		2014年12月期 実績 (決算期変更影響除外) ※	
			計画増減額		前年同期増減額
売上高	157,289	162,000	△4,711	183,760	△26,471
営業利益	△8,159	△6,600	△1,559	△7,292	△867
経常利益	△7,363	△6,100	△1,263	△8,393	1,030
当期純利益	△13,324	△11,900	△1,424	△8,920	△4,404

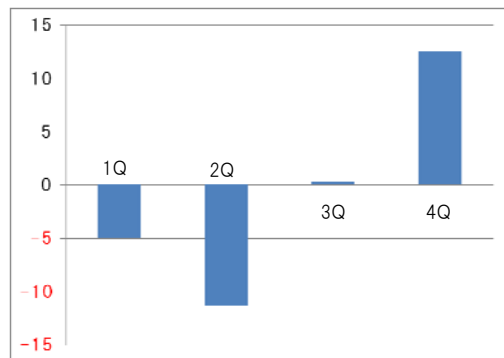
※連結子会社の決算期変更の影響により、シャディ関連連結3社、(株)オリエンタルダイヤモンド及び(株)レセンテの2014年12月期につきましては、2013年10月1日から2014年12月31日までの15ヶ月間の会計期間となっております。なお、該当期間は収益性の高いお歳暮・年末商戦を含みますので、同期間比較として決算期変更の影響を除外した2014年12月期実績(決算期変更影響除外)を記載させていただいております。

《ニッセン経営再建に向けた事業構造改革は、概ね計画通りに推移》

- 3Q-4Q(7月-12月)の(株)ニッセンの営業利益は前年から改善
 - ✓ 3Q 営業利益 0.3 億円の 前年改善
 - ✓ 4Q 営業利益 12.5 億円の 前年改善

主要事業会社の(株)ニッセンにおける1月-3月及び4月-6月の前年差比較では、カタログ多頻度発行の影響等により利益悪化傾向が続いていたが、販売固定費・その他固定費等の損益構造改善により、7月-9月では前年差比較でようやく良化。加えて、10月-12月では、在庫処分を主軸に置き、プロモーション費用の効率化を図ったことで、売上高は減少したものの利益は良化。

(株)ニッセン四半期営業利益前年差 (単位:億円)



《営業概要【ニッセン】》

➤ 売上高について

売上高減少の主な要因は、商品開発体制の全面見直し過程において、コスト効率を重視したプロモーション費用の投下、新規カタログ配布部数の削減等、利益性改善のための販売固定費の適正化を図る。

＜販売固定費の売上比率＞

14年:24.2% ⇒ 15年実績:20.6%(計画比:96.0%、前年比:67.2%)

＜カタログ発行部数＞

14年:2億2千万部 ⇒ 15年実績:1億3千万部
(計画比:89.7%、前年比:59.1%)

➤ 営業利益について

利益悪化の主な要因は、売上高減少に伴う粗利影響に加えて、14年秋冬以降の商品在庫の早期処分の加速、大型家具事業撤退に伴う商品在庫処分及び15年秋冬商品在庫の特別評価減計上に伴う原価率の悪化。

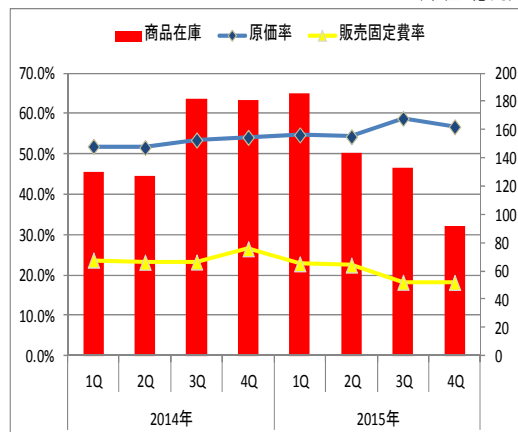
＜ニッセン原価率＞ 15年下期:57.6%(計画差+3.5%、前年同期差+3.7%)

＜ニッセン在庫推移＞ 14年期末:180億円 ⇒ 15年期末:91億円(計画比:64.2%、前年比:50.6%)

詳細につきましては、《2015年12月期 決算補足資料》をご覧ください。

(株)ニッセン 販固費・原価率・在庫推移

(単位:億円)



IRに関するお問い合わせは、下記までお問い合わせください。

株式会社ニッセンホールディングス 広報 IR 部

TEL : 075-682-2041